

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193700036		
法人名	社会医療法人 慈恵会		
事業所名	グループホーム 雅の郷		
所在地	北海道虻田郡洞爺湖町高砂町3 1番地 8		
自己評価作成日	平成25年11月21日	評価結果市町村受理日	平成26年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人が社会医療法人で慢性期医療が充実しており、医療機関との連携が密に図れること。また、2ユニットだが、平屋造りで利用者がいつでも行き来でき、交流が図れること。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=tue&JigyosyoCd=0193700036-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0193700036-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 11 月 26 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療・介護・福祉などの各サービスを提供する社会医療法人慈恵会が、各分野で蓄積されたノウハウを活かしたグループホーム雅の郷は、洞爺湖町では3件目のホームとして開設し2年目を迎えています。当ホームは、JR洞爺駅から車で5分程の場所に立地し、平屋作りで昭和の時代を思わせる調度品が随所に飾られ、家庭的で落ち着いた雰囲気を醸し出しています。ケアサービスの根幹である理念を、地域密着型サービスの意義を踏まえて再度全職員で検討し作り上げています。町内会にも加入し、運営推進会議や町内会行事では相互交流に努めています。町主催の津波避難訓練には、町内会長が利用者避難誘導に協力されるなど、地域との繋がりを深めつつあります。職員間のコミュニケーションも良好で、管理者や職員は利用者の快適な暮らし作りのために積極的に意見交換及び提案を図り、より良く豊かなホームの実現に取り組んでいます。協力医療機関が隣接していることで家族の安心に繋がり、職員と家族は名前で呼び合う程の信頼関係も築かれています。今後更なるケアサービスの質向上に向けての取り組みが期待されるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的に雰囲気を大切にする等の理念の共有を常に念頭におき業務に取り組んでおり、時折、地域の行事に参加するなどしている。	愛・まごころ・優雅の3本柱を基本に笑顔を加え、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念として、昨年全職員で見直しています。ホームページにも掲載し、広く周知、啓発にも努めています。職員は、ケアサービスを提供する上で、常に理念に立ち戻り取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内の行事などに参加している。また、施設行事への参加も呼び掛けている。	期待項目であった町内会に加入しています。町内会行事の高齢者運動会に利用者が参加し楽しんでます。町主催の津波避難訓練にも参加し、舞踊や音楽演奏のボランティアも受け入れ交流を図っています。今後はホーム主催の行事も検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事などに参加し、少しずつふれあいができてきているので、今後は認知症の方の理解をして頂けるよう働きかけ、少しでも地域貢献できるようにしていきたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター職員や民生委員の人達から防災や行方不明時の対応、町内会長から町内行事についての意見を頂き、また、ヒヤリハット等を報告し、意見を頂いてサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、町内会会長、民生委員、町職員、地域包括支援センター職員及び家族の参加を得て2ヵ月毎に開催しています。会議は、利用者の状況や運営状況、行事内容及び外部評価結果などを報告し、参加者からの意見や要望を伺い、ホームの質の向上に活かしています。今後は認知症相談コーナーの設置を検討しています。議事録は全家族に配布しています。	運営推進会議は地域に開かれたサービスとして、幅広い立場や職種の異なる方々との協議の場として有意義です。このため、家族を含めて多くの人に参加要請を働きかけると共に、議題も関心を持たれる内容を検討し、更に深まりのある会議運営になることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは管理者が連絡を密に取り、入所希望者の状況や認知症ケアの会議などにも参加し、協力関係を築いている。	管理者は、地域包括支援センター主催の認知症ケア会議に参加しています。また、町介護福祉課担当者とは情報の共有や意見交換を行い、各種相談や利用者状況、ホームの実情などを共有し、協働関係を作りつつサービスの質の向上に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設開設時に研修を行い、スタッフ全員が身体拘束禁止を正しく理解しており、拘束が人権を侵害することを念頭におき、入口を施錠しない、動きが危ないご利用者も見守りを重視する等のケアに心がけている。	開設時には内部研修を行うとともに外部研修受講職員からの情報も共有しながら、身体拘束の弊害について理解を深めています。特に、言葉かけや対応などについて、日々のケアサービスの中で気付きがあれば職員間で注意し合える関係作りに努めています。	身体拘束の弊害については、職員採用時は勿論、定期的に学ぶ機会を持ち、正しく理解し、周知徹底を図る事を期待します。外部研修も定期的に受講する事を検討して頂き、常に新しい情報を取り入れて、職員間で共有を図る事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設開設時に研修を行い、また、外部の虐待防止の研修にも参加する等、学ぶ機会を設けている。スタッフ間で注意をしあう等、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見人制度について研修に参加し、権利擁護を必要とするご家族には詳しく伝えたりしている。今後はスタッフにも研修を行い、学ぶ機会を設けていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、理解・納得を得ている。また、疑問点がある場合はその場で説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画作成時や面会時等にご利用者やご家族の意見・要望をくみ取り支援に反映させ、運営推進会議等でも意見要望をお聞きし施設運営に反映させている。	家族の来訪が多く、職員は来訪時や電話連絡の際に、話し易い雰囲気作りに努めながら、意見及び要望などの表出を促しています。情報は連絡ノートや個人記録に記載し、職員間で共有を図り、意向に沿う様に対応しています。3ヵ月毎に季刊誌を発行し、ホームでの暮らしぶりも伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の全体会議やユニット会議などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、常にスタッフとコミュニケーションを図り、様々な意見を聞く機会を設けている。	月1度の全体会議やユニット会議にて管理者は職員の要望や意見、提案などを聞き取り、話し合う機会を設けています。更に人事考課制度を導入し、年2回の個人面談も実施しています。職員からは、食材購入店の変更や調理器具の購入検討、誕生祝いの個別開催など様々な提案が出され、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回職員との個人面談を行い、勤務状況や実績について話し合っている。また、資格取得についても積極的にすすめ、向上心が持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を積極的に進めたり、法人内外の研修に参加しスキルアップを図ろうとしているが、勤務状況により研修に参加できないこともあるため、今後の検討課題の一つである。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会や老人福祉施設の研修会などに参加し、交流を図っているが、相互訪問等は行っていないため、今後の課題と考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを十分に図り、ご本人の訴えに耳を傾け、信頼関係が築けるよう努め、ご本人が安心して生活できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時にはご本人の生活等をご家族に伺って情報としている。ご家族の要望・訴えを聞き、日頃から近況報告をするなど信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前の生活状況や身体・精神状況、ご家族の苦勞話し等をお聞きし、「その時」を重視したサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごす中で心身の状態把握を行い、声掛けやケアに当たり、その人らしい生活を送って頂けるよう、よりご本人に近い立場での関係に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人に変化があった時など常に近況報告を行い、連携を図りながらご本人を支えていける関係を築く努力をしている。また、面会時には居室でゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が行きたいなじみの場所や友人に会いたい等の訴えがある時は、積極的に支援している。	馴染みの店への買い物や郵便局、自宅に着替えを取りに帰るなどの希望があれば、職員が同行支援しています。墓参りや温泉、行き付けの美容室へは家族の協力を得て支援しています。親しい知人や友人の訪問は歓迎し、居心地良く過ごして頂く様に努め、馴染みの関係が途切れない様に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が関われる場を作ったり、スタッフが間に入って関係性を保てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で契約終了したご利用者のご家族には、病気が安定したらいつでも再入所をお待ちしていることとお知らせしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご本人の思いや意向を把握するように努め、職員間で周知徹底している。困難な場合は、アセスメントをし、本人らしい生活を支援している。	利用開始時のアセスメントや生活歴、家族からの情報を通して、利用者への理解を深めています。日々の暮らしの中で、利用者に関心を払い、思いや暮らしへの意向を汲み取り、職員間で情報を共有し、支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、担当ケアマネ等にお話をお聞きし、これまでの暮らし方などの情報を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること、できないこと、わかること、わからないこと等の心身状況の把握に努め、その日その日の行動を記録に残し、情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議などで話し合いを行い、アイデアや意見を出し合い、また、何かあった場合はその都度話し合い、ご本人・ご家族の意見は常に確認し、ケアプランへ反映できるよう努めている。	モニタリングを基に、毎月のユニット会議にて職員の気づきや意見を出し合って利用者の状況を確認し、介護支援専門員が作成しています。本人、家族の希望、要望は来訪時や電話にて確認し反映させています。定期見直しは3~6ヵ月とし、状況変化時は随時見直されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や気づき等を日々の記録にすべて残し、職員間で情報を共有し、様々なタイミングで話し合いプラン見直しや実践へ反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意見等を大切に、相談させて頂きながら、その人の心身の状況に合わせ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はあまり行っていないが、方が一、離設等の時には、行政や新聞店、タクシー会社、ガソリンスタンドなどとのSOSネットワークの構築を検討している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に沿ってかかりつけ医を決め、常に適切な医療が受けられるよう支援している。	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医への受診が行われ、通院には職員が支援しています。かかりつけ医の定期往診と週1度の訪問看護師の健康管理で、適切な医療を受けています。協力医療機関も隣接しており、連携体制が整備されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の心身状況の把握に努め、訪問看護師への情報提供や気づき等は常に報告・連絡を取り適切な受診や看護が受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院関係者とは連携を図り、入院時には密に連絡を取り、情報交換や相談に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針等は早期にご家族の希望や要望を伺い、訪問看護等とも話し合い、チームで最善に向けて支援できるように取り組んでいる。	医療連携体制が整備されており、対応指針が明文化されています。ただし、開設から2年目で利用者の介護度が軽い事もあり、改めて本人及び家族に説明及び同意を得るまでには至っておりません。	在宅での看取りが重視されている現状では、出来るだけ早い段階で、家族にホームの対応方針を説明し、同意を得る事が望まれます。職員にはターミナル研修受講の機会を検討し、倫理観やケアの質の向上を図る事を期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急対応の訓練を受けているが、今後も継続して様々な訓練・研修を行い、実践を身につける必要がある。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防と行政と連携を図り避難訓練を行ったり、地域の津波避難訓練にも参加している。今後は地域住民との協力体制を築くよう努めていく。	7月に消防署指導の下、昼間想定での避難訓練を実施しています。12月に夜間想定での訓練を予定していますが、地域住民の参加協力には至っておりません。避難場所の確認及び職員の緊急連絡網は整備されています。	火災に加え、自然災害や大停電などの予期せぬ事態を想定した避難訓練の実施を期待します。また、地域住民の避難訓練への参加及び緊急連絡網の中にも地域住民がメンバーに入っていたく様に、地域の協力体制強化への取り組みに期待します。なお、備蓄品の確保も期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人格」「尊厳」は常に全職員が念頭におき関わりを持ち、自尊心に配慮した言葉かけを行っているが、不十分・不適切な場面もあり、お互いに注意し合い対応している。	利用者一人ひとりの尊厳に配慮した言葉かけや支援が行える様に、管理者と職員は共に確認し合い、注意を払っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアやサービスを提供する際にはご利用者の意見を聞いて対応し、自己決定を大切に支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた生活リズムで日常生活を送って頂けるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を着て頂いたり、毎日、お化粧をしたい人にはできるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、色々な方法で食事の準備や調理、後片付けをお手伝いして頂き、メニューを決める際にはご利用者の食べたい物を入れるなどの支援をしている。	利用者の嗜好や栄養のバランスに配慮しながら1週間単位で、職員がメニューを作成しています。各ユニットでメニューが違うので、相互に検食して評価し合い、調理技術を磨いています。買物や準備、後片付けなどを利用者が力量に合わせて職員と一緒にいき、畑の野菜も取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	訪問看護とも協働し栄養・水分の確保に努めている。また、本人の嗜好品やその日の摂取状況を把握し、量や栄養バランスの確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その時の心身の状況により口腔ケアが行えない時もあるが、毎食後に行うよう促している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、状態・状況に合わせた排泄の支援を常に検討し、自立を目指している。また、声掛け等の配慮も行っている。	ほとんどの利用者は自立しており、自分の意思でトイレ排泄を行っています。声かけや誘導が必要な利用者には職員が排泄パターンを把握して、トイレでの排泄支援に取り組んでいます。布パンツ使用者も多く、衛生用品の使用も個々に対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が精神状況に及ぼす影響を研修しており、水分不足にならないよう促し、ラジオ体操等の運動を日常生活に取り入れ、参加を働きかけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に沿った入浴を心がけており、いつでも入浴可としているが、あまり希望を言われないので、職員側で決めていることが多い。	週2回の入浴を目安に、希望が有ればいつでも入浴できる体制は整っています。入浴を拒む利用者には、気の合う利用者と一緒に入浴して頂くなど工夫しています。なまた、衛生保持のために清拭や足浴も対応しています。なお、重度の利用者は2人介助で支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に休みたい人には休んで頂き、夜間不眠がちな人には、日中なるべく起きて頂くよう促し、昼夜逆転にならないよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を必ず目を通すよう努めている。また、薬が変わった時の心身の状況把握にも注意して努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション等は毎日の日課等で決めていないが、一人ひとりの意思等を尊重し過ごして頂いている。また、ドライブや散歩等の楽しみも取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の希望や近隣への外出等の日常的な支援は行っている。普段行けないような場所へはバスレク等を行ったり、家族にお願いしたり対応している。地域の人々への協力は行っていない。	年間行事を立て、バスによるレクリエーションで花見やドライブ、紅葉狩りなど季節に応じて戸外に出る機会を楽しみ、外食にも出かけています。日常では、買い物や散歩、畑作業などで気分転換を図っています。家族の協力を得ながら、墓参りや温泉など、個々の対応にも取り組んでいます。家族と一緒に夏祭りも開催し喜ばれました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望またはご家族の意向によりお金の所持を決定されている。所持されている方は自由に使えるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って頂いたり、希望時には電話できるように支援し、手紙もいつでも出せるよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は掃除や整理整頓をし不快や混乱を招かないよう配慮し、心地よい共用空間作りを目指しているが、まだまだ工夫していく必要があると思われる。	玄関を中心にして左右に2ユニットが配置されており、玄関までのエントランスを歩いていると、窓越しに利用者の笑顔が伺えます。玄関にはうがい、手洗いが出来る洗面台が設置され、各ユニットには、加湿器、空気清浄器も備えて有り、衛生面に配慮されています。リビングには食卓テーブルにソファが配置され、廊下にも椅子を用意して、それぞれに寛げる空間が用意されています。壁には外出行事のスナップ写真が飾られ、楽しい思い出が蘇り、話題に繋がっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時はくつろぎ空間を使用して頂いたり、居室で休んで頂くよう支援している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に居室に配置する物は使い慣れた物やなじみの物を持ってきて頂くようお話している。また、居心地や安全面にも配慮している。	居室には、整理整頓に便利な釣り棚が設置され、各居室温度はオール電化の空調設備により、常に安定しています。利用者は、使い慣れた家具や椅子、テレビ、ベットなどを持ち込み、居心地良い空間を作り上げています。好みで、床に布団スタイルの居室も見受けられます。家族写真や絵なども飾り、安らげる環境を整えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手すり等を設置しており、一人ひとりの力を活かした安全な環境づくりを目指しているが、今後は個別に対応した工夫が必要と思われる。			